

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・ロシア株マザーファンドの受益証券
	ダイワ・ロシア株マザーファンド	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のDR（預託証券）
マザーファンドの運用方法	<p>①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>（※）株式…DR、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。</p> <p>イ. 業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。</p> <p>ロ. 財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着目し、買付候補銘柄を決定します。</p> <p>ハ. ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。</p> <p>③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。</p> <p>④株式の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本とします。</p> <p>⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
株式組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてマザーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

# ダイワ・ロシア株ファンド

## 運用報告書(全体版) 第15期

(決算日 2015年8月20日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ・ロシア株ファンド」は、このたび、第15期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<4778>

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率				
	円	円	%		%	%	%	百万円
11期末(2013年8月20日)	8,028	0	△ 8.5	6,788	△ 7.4	90.4	—	6,467
12期末(2014年2月20日)	8,228	0	2.5	6,767	△ 0.3	93.6	—	5,378
13期末(2014年8月20日)	8,588	0	4.4	6,934	2.5	93.2	—	5,161
14期末(2015年2月20日)	7,914	0	△ 7.8	6,181	△ 10.9	93.1	—	5,023
15期末(2015年8月20日)	7,536	0	△ 4.8	5,950	△ 3.7	90.7	—	4,489

(注1) MSCIロシア10/40指数(配当込み、円換算)は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCIロシア10/40指数(配当込み、米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCIロシア10/40指数は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

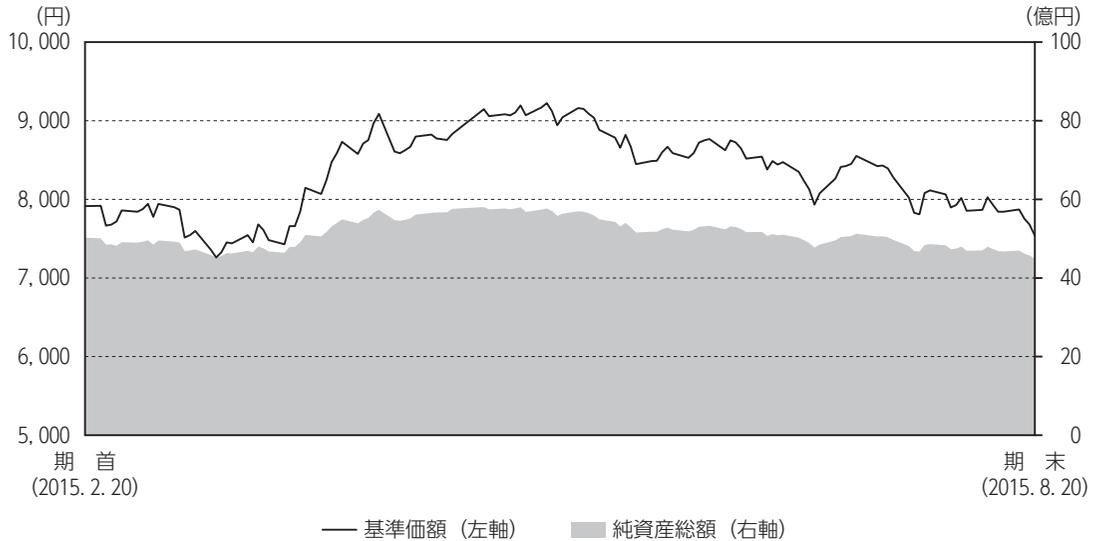
(注2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注3) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注4) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

## 《運用経過》

## 基準価額等の推移について



## ■ 基準価額・騰落率

期首：7,914円

期末：7,536円

騰落率：△4.8%

## ■ 基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じてロシアの株式に投資した結果、ロシア株式市況が下落したことにより、基準価額は値下がりしました。

ダイワ・ロシア株ファンド

年 月 日	基 準 価 額		M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
	騰 落 率		(参考指数)	騰 落 率		
	円	%		%	%	%
(期首)2015年2月20日	7,914	—	6,181	—	93.1	—
2月末	7,860	△ 0.7	6,219	0.6	93.0	—
3月末	7,659	△ 3.2	6,030	△ 2.4	94.9	—
4月末	8,755	10.6	6,985	13.0	94.3	—
5月末	8,883	12.2	7,045	14.0	90.9	—
6月末	8,379	5.9	6,580	6.5	94.2	—
7月末	8,114	2.5	6,389	3.4	95.5	—
(期末)2015年8月20日	7,536	△ 4.8	5,950	△ 3.7	90.7	—

(注) 騰落率は期首比。

**投資環境について****○ロシア株式市況**

ロシア株式市況は、期首から2015年3月中旬にかけて、原油価格などの商品市況が下落したことやインフレ率が依然として高い伸びを示していたことなどが嫌気され、軟調な値動きとなりました。その後、一部の経済指標に改善の兆しが出てきたことや原油価格が上昇に転じたこと、他の新興国市場と比較して株価バリュエーションが割安なことなどが支援材料となり、5月中旬にかけて上昇基調となりました。6月下旬にかけては、原油価格の上昇に一服感が出てきたこと、ロシア中央銀行が外貨準備高増加をめざして外貨買い／ロシア・ルーブル売りを実施したこと、中国本土株式が急落したこと、ギリシャの債務問題への不透明感が台頭したことなどが嫌気され、下落基調となりました。期末にかけても、イランへの経済制裁解除による原油供給量の増加観測から原油価格が大幅安となったことや、中国が人民元を切下げたことをきっかけに投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを受けて、軟調な展開が続きました。

**○為替相場**

対円で見たロシア・ルーブルは、期首から2015年5月中旬にかけて上昇基調となりました。ウクライナと分離独立派が停戦で合意したことや原油価格が反発に転じたこと、インフレ指標など一部経済指標で改善の兆しが出てきたことなどが支援材料となりました。その後、ロシア中央銀行が外貨準備増を目的に外貨買い／ルーブル売りを行なったことや、金融政策決定会合の声明でインフレリスクを勘案すると追加利下げのペースが鈍る可能性があることと述べたこと、中国本土株の急落やギリシャの債務問題などから投資家のリスク回避姿勢が強まったこと、原油価格が再び下落基調となったことなどが嫌気され、期末にかけては下落基調となりました。

## 前期における「今後の運用方針」

### ○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

### ○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。当面は、原油価格、ルーブル、ウクライナ情勢の動向を注視します。ルーブル安の恩恵や堅調なキャッシュフロー、相対的に高い配当が期待できる素材セクターに注目している一方で、国内景気や経済制裁の影響が懸念される銀行株、規制リスクが懸念されて業績見通しに不透明感が高い公益事業セクターに対して慎重な見方をしています。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資しました。

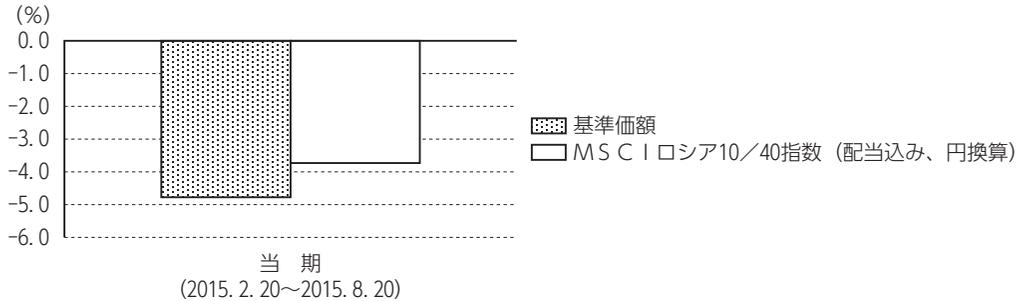
### ○ダイワ・ロシア株マザーファンド

内需回復による恩恵が期待される公益事業に加え、原油価格は低水準にあったものの、相対的に安定したキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギーセクターの組入比率を高位とした一方で、規制リスクが懸念されて業績見通しに不透明感が高い公益事業セクターに対しては慎重な投資姿勢を維持しました。内需回復の恩恵が期待される MAGNIT（生活必需品）、原油価格下落はマイナス要因であるものの、相対的に財務体質が健全で安定的なキャッシュフローを有する AK TRANSNEFT PRF（エネルギー）や LUKOIL ADR（エネルギー）などを買付けました。一方で、国内景気の減速や競争激化による収益環境の悪化などが懸念された MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR（電気通信サービス）、株式市況の軟化や株式売買高の減少などの影響が懸念された MOSCOW EXCHANGE MICEX-RTS（金融）などを売却しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

## ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2015年 2月21日 ～2015年 8月20日	
当期分配金 (税込み) (円)		—
対基準価額比率 (%)		—
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		785

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

### ○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。前述のように、ロシアを取り巻く不透明要因が多い中、業種については、内需回復による恩恵が期待される生活必需品などの投資妙味が高いと考えています。また、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、電気通信サービスや公益事業セクターについては、引続き慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 21～2015. 8. 20)		
	金 額	比 率	
信託報酬	75円	0.900%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は8,312円です。</b>
(投信会社)	(36)	(0.428)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(36)	(0.428)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(4)	(0.043)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	29	0.349	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(29)	(0.349)	
有価証券取引税	0	0.000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
その他費用	15	0.179	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(12)	(0.144)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(3)	(0.032)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	119	1.427	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ダイワ・ロシア株ファンド

### ■売買および取引の状況

#### 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月21日から2015年8月20日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	218,467	209,000	614,146	587,000

(注) 単位未満は切捨て。

### ■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2015年2月21日から2015年8月20日まで)

項 目	当 期
	ダイワ・ロシア株マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	9,064,302千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,854,690千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.86

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

### ■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

### ■組入資産明細表

#### 親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	口 数	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	5,632,883	5,237,204	4,445,338	

(注) 単位未満は切捨て。

### ■投資信託財産の構成

2015年8月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・ロシア株マザーファンド	4,445,338	97.7
コール・ローン等、その他	104,551	2.3
投資信託財産総額	4,549,889	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、8月20日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝123.82円です。

(注3) ダイワ・ロシア株マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(4,445,614千円)の投資信託財産総額(4,500,151千円)に対する比率は、98.8%です。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年8月20日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	4,549,889,994円
コール・ローン等	84,551,111
ダイワ・ロシア株マザーファンド (評価額)	4,445,338,883
未収入金	20,000,000
(B) 負債	60,714,897
未払解約金	14,219,113
未払信託報酬	46,357,899
その他未払費用	137,885
(C) 純資産総額 (A - B)	4,489,175,097
元本	5,956,704,569
次期繰越損益金	△ 1,467,529,472
(D) 受益権総口数	5,956,704,569口
1万口当り基準価額 (C / D)	7,536円

\* 期首における元本額は6,347,219,067円、当期中における追加設定元本額は697,715,951円、同解約元本額は1,088,230,449円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は7,536円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,467,529,472円です。

■損益の状況

当期 自2015年2月21日 至2015年8月20日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	21,814円
受取利息	21,814
(B) 有価証券売買損益	△ 212,712,816
売買益	51,574,104
売買損	△ 264,286,920
(C) 信託報酬等	△ 46,495,784
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 259,186,786
(E) 前期繰越損益金	△ 301,374,278
(F) 追加信託差損益金	△ 906,968,408
(配当等相当額)	( 164,312,179)
(売買損益相当額)	(△ 1,071,280,587)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 1,467,529,472
次期繰越損益金 (G)	△ 1,467,529,472
追加信託差損益金	△ 906,968,408
(配当等相当額)	( 164,312,179)
(売買損益相当額)	(△ 1,071,280,587)
分配準備積立金	303,480,771
繰越損益金	△ 864,041,835

- (注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。
- (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
- (注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程 (総額)」の表を参照。
- (注4) 投資信託財産 (親投資信託) の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用 : 10,131,983円 (未監査)

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	63,080,814円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	164,312,179
(d) 分配準備積立金	240,399,957
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	467,792,950
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	467,792,950
(h) 受益権総口数	5,956,704,569口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA (ニーサ)」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

《訂正のお知らせ》

作成対象期間の末日が2015年2月20日の交付運用報告書および運用報告書 (全体版) につきまして、「1万口当りの費用の明細」の表の「項目の概要」における次の記載にて下線部が不要でした。お詫び申し上げますとともに、下線部を除いてお読み替えくださいますようお願い申し上げます。

「期中の平均基準価額 (月末値の平均値) は7,751円です。」

# ダイワ・ロシア株マザーファンド

## 運用報告書 第15期 (決算日 2015年 8月20日)

(計算期間 2015年 2月21日～2015年 8月20日)

ダイワ・ロシア株マザーファンドの第15期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のDR（預託証券）
運用方法	<p>①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>（※）株式…DR、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。</p> <p>イ. 業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。</p> <p>ロ. 財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着眼し、買付候補銘柄を決定します。</p> <p>ハ. ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。</p> <p>③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。</p> <p>④株式の組入比率は、通常の状態 で信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本とします。</p> <p>⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	無制限

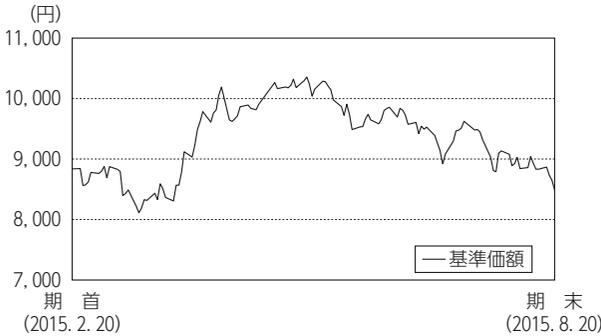
## 大和投資信託

Daewa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額と市況の推移



年 月 日	基準 価 額		MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
	円	騰落率 %	騰落率 %	騰落率 %		
(期首) 2015年 2月20日	8,837	—	6,181	—	94.0	—
2月末	8,779	△ 0.7	6,219	0.6	93.9	—
3月末	8,567	△ 3.1	6,030	△ 2.4	95.8	—
4月末	9,816	11.1	6,985	13.0	95.2	—
5月末	9,976	12.9	7,045	14.0	91.6	—
6月末	9,420	6.6	6,580	6.5	94.7	—
7月末	9,135	3.4	6,389	3.4	96.2	—
(期末) 2015年 8月20日	8,488	△ 3.9	5,950	△ 3.7	91.6	—

- (注1) MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算) は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCIロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCIロシア10/40指数は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- (注2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：8,837円 期末：8,488円 騰落率：△3.9%

【基準価額の主な変動要因】

当期の基準価額は、ロシア株式市況が下落したことにより値下がりしました。

◆投資環境について

○ロシア株式市況

ロシア株式市況は、期首から2015年3月中旬にかけて、原油価格などの商品市況が下落したことやインフレ率が依然として高い伸びを示していたことなどが嫌気され、軟調な値動きとなりました。その後、一部の経済指標に改善の兆しが出てきたことや原油価格が上昇に転じたこと、他の新興国市場と比較して株価バリュエーションが割安なことなどが支援材料となり、5月中旬にかけて上昇基調となりました。6月下旬にかけては、原油価格の上昇に一服感が出てきたこと、ロシア中央銀行が外貨準備高増加をめざして外貨買い/ロシア・ルーブル売りを実施したこと、中国本土株式が急落したこと、ギリシャの債務問題への不透明感が台頭したことなどが嫌気され、下落基調となりました。期末にかけても、イランへの経済制裁解除による原油供給量の増加観測から原油価格が大幅安となったことや、中国が人民元を切下げたことをきっかけに投資家のリスク回避姿勢が強まったことを受けて、軟調な展開が続きました。

○為替相場

対円で見たロシア・ルーブルは、期首から2015年5月中旬にかけて上昇基調となりました。ウクライナと分離独立派が停戦で合意したことや原油価格が反発に転じたこと、インフレ指標など一部経済指標で改善の兆しが出てきたことなどが支援材料となりました。その後、ロシア中央銀行が外貨準備増を目的に外貨買い/ルーブル売りを行なったことや、金融政策決定会合の声明でインフレリスクを勘案すると追加利下げのペースが鈍る可能性があること述べたこと、中国本土株の急落やギリシャの債務問題などから投資家のリスク回避姿勢が強まったこと、原油価格が再び下落基調となったことなどが嫌気され、期末にかけては下落基調となりました。

◆前期における「今後の運用方針」

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。当面は、原油価格、ルーブル、ウクライナ情勢の動向を注視します。ルーブル安の恩恵や堅調なキャッシュフロー、相対的に高い配当が期待できる素材セクターに注目している一方で、国内景気や経済制裁の影響が懸念される銀行株、規制リスクが懸念されて業績見通しに不透明感が高い公益事業セクターに対して慎重な見方をしています。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

◆ポートフォリオについて

内需回復による恩恵が期待される公益事業に加え、原油価格は低水準にあったものの、相対的に安定したキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギーセクターの組入比率を高位とした一方で、規制リスクが懸念されて業績見通しに不透明感が高い公益事業セクターに対しては慎重な投資姿勢を維持しました。内需回復の恩恵が期待されるMAGNIT (生活必需品)、原油価格下落はマイナス要因であるものの、相対的に財務体質が健全で安定的なキャッシュフローを有するAK TRANSNEFT PRF (エネルギー) やLUKOIL ADR (エネルギー) などを買い付けました。一方で、国内景気の減速や競争激化による収益環境の悪化などが懸念されたMOBILE TELESYSTEMS-SP ADR (電気通信サービス)、株式市況の軟化や株式売買高の減少などの影響が懸念されたMOSCOW EXCHANGE MICEX-RTS (金融) などを売却しました。

## ダイワ・ロシア株マザーファンド

### ◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは、運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当期の参考指数（MSCIロシア10/40指数（配当込み、円換算））の騰落率は△3.7%となりました。一方、当ファンドの騰落率は△3.9%となりました。

### 《今後の運用方針》

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。前述のように、ロシアを取り巻く不透明要因が多い中、業種については、内需回復による恩恵が期待される生活必需品などの投資妙味が高いと考えています。また、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、電気通信サービスや公益事業セクターについては、引き続き慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応してまいります。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

### ■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (株式)	33円 ( 33)
有価証券取引税 (株式)	0 ( 0)
その他費用 (保管費用) (その他)	17 ( 14) ( 3)
合 計	49

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出方法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

### ■売買および取引の状況

#### 株 式

(2015年2月21日から2015年8月20日まで)

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	ロシア	百株 681,591.14 (△ 800)	千アメリカ・ドル 36,197 (△ 1,167)	百株 1,682,731.5	千アメリカ・ドル 37,830

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ( )内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

### ■主要な売買銘柄

#### 株 式

(2015年2月21日から2015年8月20日まで)

銘 柄	当 期			買 付			売 付		
	株 数	金 額	平均単価	株 数	金 額	平均単価	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円	千株	千円	円	千株	千円	円
SBERBANK (ロシア)	4,535	721,916	159	4,285	673,786	157	4,285	673,786	157
LUKOIL PJSC-SPON ADR (ロシア)	84	458,920	5,463	700	426,619	609	700	426,619	609
NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S (ロシア)	29	345,194	11,903	65	376,766	5,796	29	345,194	11,903
VTB BANK JSC -GDR-REG S (ロシア)	855	274,203	320	32.4	369,795	11,413	855	274,203	320
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS (ロシア)	40	267,961	6,699	755	263,302	348	40	267,961	6,699
URALKALI PJSC-SPON GDR-REG S (ロシア)	117	198,626	1,697	106.75	185,983	1,742	117	198,626	1,697
MEGAFON-REG S GDR (ロシア)	105.75	194,201	1,836	140,000	180,644	1	105.75	194,201	1,836
MMC NORILSK NICKEL OJSC (ロシア)	7	161,404	23,057	310	171,151	552	7	161,404	23,057
SURGUTNEFTEGAS (ロシア)	2,061.264	158,397	76	2,030	169,016	83	2,061.264	158,397	76
ALROSA PAO (ロシア)	1,020	153,436	150	23	149,008	6,478	1,020	153,436	150

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

外国株式

銘柄	株数	当株数	期末		業種等
			評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
	百株	百株	千アメリカ・ドル	千円	
(ロシア)					
MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR	1,930	800	618	76,570	電気通信サービス
VTB BANK JSC -GDR-REG S	5,500	6,500	1,329	164,587	金融
NOVOLIPET STEEL-GDR REG S	225	—	—	—	素材
TATNEFT-SPONSORED ADR	180	—	—	—	エネルギー
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR	500	600	888	109,952	素材
SISTEMA JSFC-REG S SPONS GDR	575	—	—	—	電気通信サービス
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS	730	900	4,394	544,096	生活必需品
MEGAFON-REG S GDR	1,010	1,000	1,315	162,823	電気通信サービス
URALKALI PJSC-SPON GDR-REG S	700	650	961	119,034	素材
NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S	209	175	1,589	196,858	エネルギー
LUKOIL PJSC-SPON ADR	560	750	2,834	350,983	エネルギー
ROSNEFT OJSC-REG S GDR	4,400	3,150	1,154	142,986	エネルギー
TMK-GDR REG S	600	—	—	—	エネルギー
GAZPROM PAO -SPON GDR	5,200	—	—	—	エネルギー
SEVERSTAL - GDR REG S	1,300	1,600	1,718	212,772	素材
SURGUTNEFTEGAS-PREFERENCE	11,000	15,000	870	107,723	エネルギー
ALROSA PAO	15,600	17,500	1,725	213,651	素材
MOSCOW EXCHANGE MICEX-RTS	16,000	10,000	1,116	138,183	金融
SBERBANK	27,500	30,000	3,222	398,948	金融
MAGNIT	—	25	452	56,032	生活必需品
AK TRANSNEFT OAO-PREF	6.95	7.95	1,847	228,754	エネルギー
URALKALI	1,500	2,500	720	89,243	素材
SEVERSTAL	480	—	—	—	素材
ROSTELECOM	8,000	6,750	835	103,470	電気通信サービス
TATNEFT-CLS	2,000	3,550	1,634	202,417	エネルギー
SURGUTNEFTEGAS	14,000	14,312.64	729	90,381	エネルギー
MMC NORILSK NICKEL OJSC	30	25	365	45,221	素材
GAZPROM PAO	4,500	5,500	1,163	144,033	エネルギー
ROSNEFT OAO	150	1,000	362	44,835	エネルギー
LUKOIL OAO	200	350	1,297	160,697	エネルギー
RUSHYDRO PJSC	1,000,000	—	—	—	公益事業
ファンド合計	株数、金額 銘柄数<比率>	1,124,585.95 30銘柄	122,645.59 24銘柄	33,146 <91.6%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

## ダイワ・ロシア株マザーファンド

### ■投資信託財産の構成

2015年8月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	4,104,257 千円	91.2 %
コール・ローン等、その他	395,893	8.8
投資信託財産総額	4,500,151	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、8月20日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝123.82円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(4,445,614千円)の投資信託財産総額(4,500,151千円)に対する比率は、98.8%です。

### ■損益の状況

当期 自2015年2月21日 至2015年8月20日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	114,551,981円
受取配当金	114,532,481
受取利息	19,500
(B) 有価証券売買損益	△ 260,795,609
売買益	490,343,100
売買損	△ 751,138,709
(C) その他費用	△ 9,176,036
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 155,419,664
(E) 前期繰越損益金	△ 662,192,352
(F) 解約差損益金	29,268,155
(G) 追加信託差損益金	△ 9,477,249
(H) 合計 (D + E + F + G)	△ 797,821,110
次期繰越損益金 (H)	△ 797,821,110

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年8月20日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	4,500,151,686円
コール・ローン等	378,766,520
株式(評価額)	4,104,257,970
未取配当金	17,127,196
(B) 負債	20,000,000
未払解約金	20,000,000
(C) 純資産総額 (A - B)	4,480,151,686
元本	5,277,972,796
次期繰越損益金	△ 797,821,110
(D) 受益権総口数	5,277,972,796口
1万口当り基準価額 (C / D)	8,488円

\* 期首における元本額は5,695,463,702円、当期中における追加設定元本額は218,677,249円、同解約元本額は636,168,155円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ・ロシア株ファンド(FOFs用)(適格機関投資家専用)22,876,824円、ダイワ・ロシア株ファンド5,237,204,151円、ダイワ新興4カ国株式ファンド(ダイワSMA専用)17,891,821円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は8,488円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は797,821,110円です。